

# 『聆濤閣集古帖』所収資料にみる 考古学への系譜 弥生時代武器形品の検討から

Connection to Archeology Viewed from the Documents Included in  
'Reitokaku-Shukocho': On the Study of Weapon-shaped Objects of  
the Yayoi Period

吉田 広

YOSHIDA Hiroshi

はじめに

- ①『聆濤閣集古帖』所収の弥生時代武器形品
- ②好古・集古の系譜－好古人士のネットワーク－
- ③『聆濤閣集古帖』の成立背景

おわりに

## 【論文要旨】

『聆濤閣集古帖』鋒帖所収の弥生時代武器形品について、関連近世史料と近現代の考古学研究成果から詳細を検討し、各資料の来歴と考古資料としての特徴を明らかにした。『聆濤閣集古帖』所収にあたっては、考古資料自体ないし拓本、あるいは写本・刊本といった記録・図からの書写といった多様な媒体を通して資料の収集が図られていること、かつ書写の精粗や情報の変化・遺漏・混同等の生じていた状況を指摘した。さらに、近世における好古・集古盛行について、以後の継承も含めた歴史の変遷・系譜について概略整理を行い、『聆濤閣集古帖』は、18世紀末寛政期に吉田道可が藤貞幹と密接な関係をもって進めた好古・集古の成果、その嚆矢の一つと位置付けた。

【キーワード】好古、集古、寛政期、吉田道可、藤貞幹